

統一的な基準による財務書類(令和5年度 一般会計等)概要

令和5年度においては、地方債の抑制に伴い、将来世代の負担となる負債を減少させています。純資産比率は類似団体平均を上回り、負債比率は類似団体平均を下回るなど、健全な財政運営となっています。その一方、資産老朽化比率は上昇し類似団体平均より高く、資産の老朽化が課題となっています。

① 貸借対照表(バランスシート)

貸借対照表は会計年度末時点において資産と、その資産をどのような財源(負債・純資産)で賄ってきたかを一目で分かるようにしたものです。左側に資産を表示し、右側に負債及び資産と負債の差額である純資産を表示しています。

資産の部(これまで積み上げてきた資産)		負債の部(将来世代が負担する金額)	
1 固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、市営住宅、地区集会所など	189億1,757万円	1 固定負債 (1) 地方債 99億3,313万円 (2) 退職手当引当金 26億3,578万円 (3) その他の固定負債 17万円
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など	650億113万円	
	(3) 物品、ソフトウェアなど	2億5,008万円	
	(4) 投資その他の資産	35億7,868万円	2 流動負債 (1) 賞与等引当金 2億2,133万円 (2) その他の流動負債 17億1,576万円 負債合計 145億616万円
2 流動資産	(1) 現金預金	11億2,859万円	純資産の部(現在までの世代が負担した金額) 純資産合計 772億7,456万円
	(2) 基金、未収金など	29億467万円	
資産合計		917億8,072万円	負債及び純資産合計 917億8,072万円

資産と負債の状況

①住民1人当たりの資産と負債残高 (令和6年1月1日 総務省 49,668 人)
住民基本台帳人口
資産 = 185万円 負債 = 29万円

②純資産比率(今までの世代で負担済分)..... **84.2%** 類似団体平均 72.2%
昨年度 83.7%
社会資本に対する、現在までの世代がすでに負担している割合(社会資本形成の世代間比率)【純資産/総資産】

③有形固定資産減価償却率(資産の老朽割合)..... **74.8%** 類似団体平均 64.6%
昨年度 73%
償却資産の耐用年数に対して、取得からどの程度経過しているか把握する割合【減価償却累計額/取得価額等】
※令和5年度末現在 償却資産取得価額等: 2,690億1,257万円 減価償却累計額: 2,010億9,026万円

④負債比率(純資産に対する負債の割合)..... **18.8%** 類似団体平均 38.5%
昨年度 19.5%
この比率が低いほど財政状況が健全であることを示します。【負債/純資産】

令和5年度財政運営の総括

①業務活動収支 **20億7,622万円** ⇒ 堅調な財政運営
②投資活動収支 **△7億6,816万円** (基金積立、資産形成)
③財務活動収支 **△13億1,708万円** (将来世代の負担)
①~③の合計である令和5年度の資金収支は **△902万円**

本年度末資金残高及び本年度末歳計外現金残高との合計は **11億2,859万円**

④ 資金収支計算書

現金の流れを示すものです。その収支を性質に応じて区分して表示することで、どのような活動に資金を必要としているかを表示しています。

前年度末資金残高(繰越金)	10億456万円
本年度資金収支額	△902万円
1 業務活動収支 税金、国県等補助金、人件費など	20億7,622万円
2 投資活動収支 公共施設等整備費支出、国県等補助金など	△7億6,816万円
3 財務活動収支 地方債等発行、償還など	△13億1,708万円
本年度末歳計外現金残高(預り金)	1億3,305万円
本年度末現金預金残高	11億2,859万円

③ 純資産変動計算書

純資産(資産から負債を引いた残り)が年度内にどのように増減したかを明らかにするものです。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

前年度末純資産残高	803億9,256万円
本年度変動高	△31億1,800万円
△純行政コスト	△193億1,728万円
財源 (市税、地方交付税、国・県補助金)	165億1,055万円
資産形成への充当	△3億1,128万円
その他	
本年度末純資産残高	772億7,456万円

② 行政コスト計算書

経常的な活動に伴うコストと使用料・手数料等の収入を示すものです。従来の官庁会計では捕捉できなかった減価償却費など非現金コストについても計上しています。経常費用合計から経常収益合計を差引いたものが当該年度の純経常行政コストとなります。

経常費用	200億3,857万円
人件費 人件費、退職手当引当金繰入など	37億8,200万円
物件費等 物件費、減価償却費、維持補修費など	79億6,270万円
その他の業務費用 支払利息など	2億2,635万円
移転費用 補助金等、社会保障給付、他会計への支出など	80億6,752万円
経常収益	7億1,874万円
純経常行政コスト (経常費用 - 経常収益)	193億1,982万円
臨時損失 災害復旧費など	
臨時利益 資産売却益など	254万円
純行政コスト (純経常行政コスト + 臨時損失 - 臨時利益)	193億1,728万円

● 4つの財務書類の公表について

皆さんに財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨している「新地方公会計制度」に基づいて、4つの財務書類を作成しました。

● 財務書類作成に当たって(効果)

今回の財務4表は、平成26年4月に総務省から報告された今後の地方公会計の推進に関する研究会報告書の「統一的な基準」により作成しています。この「統一的な基準」の特徴は全ての固定資産を対象に公正価格を評価することにあります。そのため、土地及び建物の固定資産台帳を整理したことから財産管理の適正化が図られました。

● 財政健全化判断比率(令和5年度)

健全化判断比率	富里市	早期健全化基準
実質赤字比率(%)	-	13.28
連結実質赤字比率(%)	-	18.28
実質公債費比率(%)	6.8	25.00
将来負担比率(%)	-	350.00

※表中、表示単位未満は四捨五入のため合計が一致しない場合があります。